

●平成13年度 決算公告●

● 貸借対照表の要旨

平成14年3月31日現在 (単位 千円)

資産の部			負債・基本金・消費収支差額の部		
科目	平成13年度末	平成8年度末	科目	平成13年度末	平成8年度末
資産	15,465,312	15,695,880	負債	1,537,106	2,706,111
固定資産	13,482,460	13,339,723	固定負債	639,782	1,717,932
有形固定資産	12,173,016	12,935,784	流動負債	897,324	988,179
その他固定資産	1,309,444	403,939	基本金	14,895,526	13,236,989
流動資産	1,982,852	2,356,157	消費収支差額	△ 967,320	△ 247,220
合 計	15,465,312	15,695,880	合 計	15,465,312	15,695,880

● 消費収支計算書の要旨

平成13年4月1日から平成14年3月31日まで (単位 千円)

消費収入の部			消費支出の部		
科目	平成13年度末	平成8年度末	科目	平成13年度末	平成8年度末
学生生徒等納付金	2,085,711	2,017,455	人 件 費	2,277,454	1,940,259
補 助 金	875,122	874,780	教育研究経費	653,879	652,376
そ の 他	339,514	248,742	管 理 経 費	245,396	255,091
帰属収入合計	3,300,347	3,140,977	そ の 他	115,418	146,760
基本金組入額	△ 208,848	△ 215,236			
消費収入合計	3,091,499	2,925,741	消費支出合計	3,292,147	2,994,486
消費支出超過額	200,648	68,745	消費収入超過額		
合 計	3,292,147	2,994,486	合 計	3,292,147	2,994,486

	平成13年度末	平成8年度末
当年度消費収入超過額	△ 200,648	△ 68,745
前年度繰越消費支出超過額	766,671	178,475
翌年度繰越消費支出超過額	967,320	247,220

財務部長 川口 博

前は貸借対照表、前々回は消費収支計算書の見方について説明しました。今回は過年度と比較して、それらを見ていきます。過年度といっても前年度とはあまり変わりませんでしたので、5年前と比較して分析してみます。

消費収支計算書の収入の部は、科目ごとには大差はないように見えますが、総収入である帰属収入で約1億5千万円増加しています。しかし、消費支出の部の人件費が膨らんだ分赤字になっています。これは早期退職制度の応募者が多かったことと退職給与引当金繰入額の基準変更が起因しています。従って、これら単年度の変化要因を取り除きますと、1年間の収支状況は5年前も今回も特に大きな差はありません。

一方、貸借対照表の方に目を転じて見ますと、資産のうち有形固定資産については減価償却の関係で減少しているものの、特定資産等その他の固定資産が3倍あまり増加し、流動資産が減りつつあるものの資産内容は充実してきました。また負債は、固定負債が大幅に減少していますが、これは退職給与引当金が倍増したにもかかわらず長期借入金4分の1以下に減少することによって現れたもので、この有利子負債の圧縮は今後の学園財政に大きく寄与するものです。それと共に、基本金に消費収支差額を加えたものを自己資本として捉える事ができますが、この5年間で10億円近く増加し、自己資本比率も82.8%から90.1%へと7.3ポイント上昇しました。従って、財政状態は好転して来ましたが、今後の少子化等を勘案すれば安閑とはしておれません。